

【一】 たずねる いかたの文はどれですか。(一)に○をつけましょう。

- (1) (一) きょうは いい 天気だ。
- (2) (一) あなたは 犬が すきですか。
- (3) (一) はやく ごはんを たべなさい。
- (4) (一) しゅくだいは おわったの。
- (5) (一) 大きな さかなを つりました。
- (6) (一) 空は どうして 青いのでしょうか。
- (7) (一) わあ、きれい。
- (8) (一) けしゴムを かしてください。
- (9) (一) いつ かえってきたの。
- (10) (一) どこに あったのですか。

【二】 のぶぶんに「の」をつけて、たずねる文に なおしましょう。

- (1) 花に 水を やった。
- (2) あさごはんを たべた。
- (3) いま、べんきょうを している。

【三】 のぶぶんに「か」をつけて、たずねる文に なおしましょう。

- (1) あしたは やすみです。
- (2) あの 人が こうじくんです。
- (3) もうすぐ はじまります。
- (4) きノウ えんそくに いきました。

【四】 のぶぶんを、「くでしよう」をつかった たずねる かたちに なおしましょう。

- (1) いつ うまれたのだろう。
- (2) だれが うごかしたのか。
- (3) いったい どこで みつけたのだ。
- (4) なにを もっていくのか。
- (5) とりは、なぜ 空を とべるのか。
- (6) どのようにして やってきたのか。

【五】 のぶぶんを、「ます」をつか
つた ていねいな たずねる かたちに
なおしましょう。

- (1) さいごまで よめたの。
- (2) きょうは これで おわるの。
- (3) もうすぐ かえってくる。
- (4) きノウ ゆうえんちに いった。
- (5) みんなで およぎに いく。
- (6) どこから でてきたの。
- (7) だれが かったの。

【一】 たずねる いいかたの文はどれですか。(一)に○をつけましょう。

(1) (一) もっと はやく あるきなさい。

(2) (一) さっちゃんは どこですか。

(3) (一) きちんと かたづけて ください。

(4) (一) きつてを はったの。

(5) (一) もうすぐ かえってきます。

(6) (一) どこで みつけたのですか。

(7) (一) まあ、すばらしい。

(8) (一) 花は どこに いったのでしょうか。

(9) (一) いつ でかけるの。

(10) (一) きれいな 花が さきました。

【二】 のぶぶんに「の」をつけて、たずねる文に なおしましょう。

(1) 犬に えさを やった。

(2) ふじさんの えを かいた。

(3) いま、ほんを よんでいる。

【三】 のぶぶんに「か」をつけて、たずねる文に なおしましょう。

(1) あしたは うんどうかいです。

(2) あの 人が 田中さんです。

(3) しゅくだいが いっぱい ありました。

(4) もうすぐ 先生が こられます。

【四】 のぶぶんを、「くでしよう」をつかった たずねる かたちに なおしましょう。

(1) だれが しっているのだろう。

(2) いつ できたのか。

(3) なにを はなしているのだ。

(4) どのようにして はこんだのか。

(5) いったい どこで もらったのか。

(6) ふねは、なぜ 水に うくのか。

【五】 のぶぶんを、「ます」をつかったていねいな たずねる かたちに なおしましょう。

(1) きょうは どこまで いくの。

(2) さいごまで がんばったの。

(3) きノウ えいがを 見た。

(4) みんなで かいものに でかける。

(5) もうすぐ もどってくる。

(6) だれが きたの。

(7) どこから はじめるの。

【一】 こたえの文はどれですか。(一)に
きごうをかきましよう。

- (1) (一) ここはきょうとですか。
- (2) (一) あなたはりんごがすきですか。
- (3) (一) テストはすんだの。
- (4) (一) きのはおそくまでおきていたの。
- (5) (一) いそいでいるのでしよう。

ア、はい、すみしました。
 イ、はい、きょうとです。
 ウ、はい、いそいでいます。
 エ、はい、すきです。
 オ、はい、十日までおきていました。

【二】 こたえの文はどれですか。(一)に
きごうをかきましよう。

- (1) (一) きのははれでしたか。
- (2) (一) もうすぐできますか。
- (3) (一) 犬にえさをやったの。
- (4) (一) 学校はいえからちかいの。
- (5) (一) まえにもきたでしよう。

ア、いいえ、とおいです。
 イ、いいえ、まだまだです。
 ウ、いいえ、はじめてです。
 エ、いいえ、雨でした。
 オ、いいえ、やっていません。

【三】 こたえの文はどれですか。(一)に
きごうをかきましよう。

- (1) (一) いくつからはじめたの。
- (2) (一) この本、どこにあったの。
- (3) (一) だれがかいたえですか。
- (4) (一) なにの花をかいましたか。
- (5) (一) どんないろがすきですか。
- (6) (一) なぜ、まけたのでしよう。

ア、チューリップです。
 イ、三さいからです。
 ウ、れんしゅうぶそくがげんいんです。
 エ、つくえの下におちていたよ。
 オ、ゴッホというがかです。
 カ、あかるいかんじのいろです。

【四】 こたえの文をかきましよう。
(5)・(6)は、じゆうにかきましよう。(一)

- (1) たんにんの先生の名まえをいえますか。
はい、

(2) えん足はたのしかったですか。

はい、

(3) あなたはくりがきれいですか。

いいえ、

(4) しんどのい。

いいえ、

(5) どんなしごとがしたいですか。

(6) どこからもってきたのでしようか。

【五】 こたえの文にあう、たずねる文を
かんがえて かきましよう。

(1) その花は

○ はい、この花は、ダリアです。

(2) ここは

○ いいえ、ここはフランスです。

(3)

○ きのはのあき、もどってきました。

【一】 こたえの文はどれですか。(一)に
きごうをかきましょう。

- (1) (一) きみもしているでしょう。
- (2) (一) 一日中あそんでいたの。
- (3) (一) あなたはきょうどが好きですか。
- (4) (一) これはあじですか。
- (5) (一) ピアノのおけいこはおわったの。

ア、はい、好きです。
 イ、はい、しっています。
 ウ、はい、おわりました。
 エ、はい、あじです。
 オ、はい、あそんでいました。

【二】 こたえの文はどれですか。(一)に
きごうをかきましょう。

- (1) (一) もうすぐかえってきますか。
- (2) (一) きょうは学校を休んだの。
- (3) (一) まえにもおしえたでしょう。
- (4) (一) えきまでは、とおいの。
- (5) (一) きのはさむかったの。

ア、いいえ、いったよ。
 イ、いいえ、はじめてです。
 ウ、いいえ、ちかいです。
 エ、いいえ、あたたかかったよ。
 オ、いいえ、まだまだかえれません。

【三】 こたえの文はどれですか。(一)に
きごうをかきましょう。

- (1) (一) どんなたべものが好きですか。
- (2) (一) なぜ、こないのでしょうか。
- (3) (一) だれがもっていたのですか。
- (4) (一) なにのえをかきましたか。
- (5) (一) このかには、どこでとれたの。
- (6) (一) いつごろあつまりましたか。

ア、ほっかいどうですよ。
 イ、十二月ごろにしましょう。
 ウ、きつとしないのだとおもいます。
 エ、くだものです。
 オ、さっちゃんももっていました。
 カ、おかあさんをかきました。

【四】 こたえの文をかきましょう。
(5)・(6)は、じゆうにかきましょう。(

- (1) あなたには、おとうどがいますか。
はい、

(2) きのはさむかにいきましたか。

はい、

(3) ふゆよりもなつが好きですか。

いいえ、

(4) たのしかったの。

いいえ、

(5) だれといっしょにいたのですか。

(6) どんなべんきょうがしたいですか。

【五】 こたえの文にあう、たずねる文を
かながえて かきましょう。

(1) これは

○ はい、それはぼくのです。

(2) ここは

○ いいえ、ここは四かいではありません。

(3) なぜ、

○ みちがすぐくこんでいたからです。

【一】 人になにかをさせるために、めいれいする文を、「めいれい文」といいます。めいれい文はどれですか。(一)に○をつけましょう。

- (1) (一) こつちへきなさい。
- (2) (一) もうすぐはるですね。
- (3) (一) さつさとやれ。
- (4) (一) はんぶんもってください。
- (5) (一) ゆっくりあるきます。
- (6) (一) さあ、みんなでうたいましょう。
- (7) (一) トランプはありますか。
- (8) (一) あつまれ!
- (9) (一) まあ、すばらしい!
- (10) (一) はやくたべなさい。

★ たのんでいる文や、さそっている文も「めいれい文」です。

【二】 きんしする文も、めいれい文のなかまです。きんしの文はどれですか。(一)に○をつけましょう。

- (1) (一) そつちへいくな。
- (2) (一) おとうとはようちえんです。
- (3) (一) だれもない。
- (4) (一) それをたべてはいけません。
- (5) (一) ああ、びっくりした。
- (6) (一) 中に入っではいけません。
- (7) (一) 雨は、ふっていません。
- (8) (一) ここであそぶな。
- (9) (一) ぼくは、およげない。
- (10) (一) このはしわたるな。

★ おわりが、「くな。」「いけません。」となる文は、きんしの文です。

【三】 のぶぶんを、「くしろ。」というつよいめいれい文になおしましょう。

- (1) 早くよむ。
- (2) ゆっくりあるく。
- (3) 三じにあつまる。
- (4) 手をあらいます。
- (5) まえへすすみます。

【四】 のぶぶんを、「くしなさい。」という、ていねいなめいれい文になおしましょう。

- (1) 早くよむ。
- (2) ゆっくりあるく。
- (3) 三じにあつまる。
- (4) 手をあらいます。
- (5) まえへすすみます。

【五】 のぶぶんを、「くしな。」をつかつた、きんしの文になおしましょう。

- (1) ここでおよぐ。
- (2) 大ごえを出す。
- (3) あわててやる。

【五】 のぶぶんを、「くしなさい。」をつかつた、きんしの文になおしましょう。

- (1) ここでおよぐ。
- (2) 大ごえを出す。
- (3) あわててやる。

【二】 人になにかをさせるために、めいれいする文を、「めいれい文」といいます。めいれい文はどれですか。()に○をつけましょう。

- (1) () あっちへいきなさい。
- (2) () わたしは七さいです。
- (3) () でんきをつける。
- (4) () 百円かしてください。
- (5) () いそいでかえます。
- (6) () しょうぎをしましょう。
- (7) () てつぼうはできましたか。
- (8) () しゅうごう!
- (9) () わあ、すごい!
- (10) () ゆっくりあるきなさい。

★ たのんでいる文や、さそっている文も「めいれい文」です。

【三】 きんしする文も、めいれい文のなかまです。きんしの文はどれですか。()に○をつけましょう。

- (1) () だれもしらない。
- (2) () いもうとは、字がかけない。
- (3) () ここにらくがきをするな。
- (4) () テレビを見てはいけません。
- (5) () ふうせんがとんでいます。
- (6) () ろうかをはしるな。
- (7) () わたしは、もっていません。
- (8) () なんて大きいんでしょう。
- (9) () けんかをするな。
- (10) () さわってはいけません。

★ おわりが、「うな。」「ういけません。」となる文は、きんしの文です。

【三】 のぶぶんを、「うしろ。」というつよいめいれい文になおしましょう。

- (1) 早くかえる。 []
- (2) きれいにかく。 []
- (3) じしよをひく。 []
- (4) そうじをします。 []
- (5) 左にまがります。 []

【四】 のぶぶんを、「うしなさい。」という、ていねいなめいれい文になおしましょう。

- (1) 早くかえる。 []
- (2) きれいにかく。 []
- (3) じしよをひく。 []
- (4) そうじをします。 []
- (5) 左にまがります。 []

【五】 のぶぶんを、「うな。」をつかった、きんしの文になおしましょう。

- (1) こたえを見る。 []
- (2) 花に水をやる。 []
- (3) でん車にのる。 []

【五】 のぶぶんを、「ういけません。」をつかった、きんしの文になおしましょう。

- (1) こたえを見る。 []
- (2) 花に水をやる。 []
- (3) でん車にのる。 []

〔 めいれい文 ② 〕

国 語

年

和 清 学 習 会

【一】 つぎのめいれい文は、「めいれいの文」・「たのむ文」・「きんしの文」のどれですか。「」にかきましよう。

- (1) まえへすすめ。 「 文」
- (2) はやくかえりましよう。 「 文」
- (3) まどをあけるな。 「 文」
- (4) 水をくんでくれ。 「 文」
- (5) かぎをかけなさい。 「 文」
- (6) たべてはいけません。 「 文」
- (7) ふたをあけてください。 「 文」
- (8) くずかごに入れなさい。 「 文」
- (9) もうねましよう。 「 文」
- (10) とまれ。 「 文」

【二】 のぶぶんを、かきかえて、たのむ文にしましよう。

- (1) ゆっくりかく。 「 文」
- (2) 文をつくる。 「 文」
- (3) つくえをふく。 「 文」
- (4) かん字をおしえる。 「 文」
- (5) まめをまく。 「 文」
- (6) おもちやをかう。 「 文」
- (7) うたをうたう。 「 文」
- (8) そうじをする。 「 文」
- (9) すぐにくる。 「 文」

【三】 のぶぶんを、かきかえて、きんしの文にしましよう。

- (1) はしる。 「 文」
- (2) かえる。 「 文」
- (3) はじめる。 「 文」
- (4) 車にのる。 「 文」
- (5) えいがにいく。 「 文」
- (6) カレーをたべる。 「 文」
- (7) こうえんであそぶ。 「 文」
- (8) 山にのぼる。 「 文」
- (9) しゅくだいをする。 「 文」

【四】 のぶぶんを、()のいいかたになおしましよう。

- (1) おしえてください。 (きんしの文に)
- (2) 早くおきましよう。 (きんしの文に)
- (3) 本をかしましよう。 (たのむの文に)
- (4) えをかくな。 (きんしの文に)
- (5) またきてください。 (きんしの文に)
- (6) さんぽにいきましよう。 (きんしの文に)
- (7) きちんとかたづけよう。 (きんしの文に)

【一】 つぎのめいれい文は、「めいれいの文」・「たのむ文」・「さそう文」・「きんしの文」のどれですか。「 」にかきましよう。

- (1) 手をあげる。 「 」
- (2) さあ、おきましよう。 「 」
- (3) いすにすわるな。 「 」
- (4) きれいにかきなさい。 「 」
- (5) けしゴムでけしなさい。 「 」
- (6) とってはいけません。 「 」
- (7) てつだってください。 「 」
- (8) ドアをあけろ。 「 」
- (9) ゆっくりよみましょう。 「 」
- (10) 本をよんでくれ。 「 」

【二】 のぶぶんを、かきかえて、たのむ文にましよう。

- (1) すぐにはじめる。 「 」
- (2) こたえをなおす。 「 」
- (3) あかりをつける。 「 」
- (4) めがねをかける。 「 」
- (5) おふろに入る。 「 」
- (6) まどをあける。 「 」
- (7) ピアノをひく。 「 」
- (8) オセロをする。 「 」
- (9) きつとくる。 「 」

【三】 のぶぶんを、かきかえて、さそう文にましよう。

- (1) すわる。 「 」
- (2) おいかけろ。 「 」
- (3) いそぐ。 「 」
- (4) ごはんをたべる。 「 」
- (5) テレビを見る。 「 」
- (6) コーヒーをのむ。 「 」
- (7) さかなつにいく。 「 」
- (8) 川でおよぐ。 「 」
- (9) ファミコンをする。 「 」

【四】 のぶぶんを、（ ）のいいかたになおましよう。

- (1) つかってください。 「 」
(きんしの文に)
- (2) 早くねましよう。 「 」
(きんしの文に)
- (3) ペンでかきましよう。 「 」
(たのむの文に)
- (4) マンガ本をよむな。 「 」
(さそう文に)
- (5) 学校にいつってください。 「 」
(さそう文に)
- (6) きちんととどけよう。 「 」
(つよいめいれいの文に)
- (7) にわをはきましよう。 「 」
(つよいめいれいの文に)

[うちけしの文と意味が反対の文 ①]

国 語

和 清 学 習 会

【一】 そうでないことをあらわす文を、
「うちけしの文」といいます。ぶぶん「ない」をつけて、うちけしの文にしましょう。

(れい) 雨がふる。 「ふらない」

(1) ラジオをきく。 「

(2) 本をよむ。 「

(3) 川が見える。 「

(4) ぼくは水をのむ。 「

(5) きょうはたのしい。 「

(6) まんがはおもしろい。 「

(7) ぼくは一年生だ。 「

(8) ここは日本だ。 「

【二】 ぶぶん「ません」をつけて、ていねいな「うちけしの文」にしましょう。

(れい) でん気をつける。 「つけません」

(1) ごはんをたべる。 「

(2) しゅくだいをする。 「

(3) 水が出る。 「

(4) あねはえをかく。 「

(5) いきがくるしい。 「

(6) かれはやさしい。 「

(7) あには十さいだ。 「

(8) あれは学校だ。 「

【三】 はんたいのいみをあらわす文を、左にかきましょう。

(れい) 先生はせがたかい。 「

先生はせが「ひくい」。

(1) わたしのはははこわい。 「

わたしのははは「

(2) さくらの花がちる。 「

さくらの花が「

(3) わたしのほうがおおい。 「

わたしのほうが「

(4) ちちはちからがつよい。 「

ちちはちからが「

(5) ぼくはこくごがとくだ。 「

【四】 うちけしの文には△、はんたいのいみの文には×をかきましょう。

(1) でんきをつける。 「

でんきを「

(2) ぼくのいえはせまい。 「

ぼくのいえは「

(3) わたしは犬が好きだ。 「

わたしは犬が「

(4) 車がとまりました。 「

● 車が「うごきました。」「車がとまりませんでした。」

【一】 そうでないことをあらわす文を、
「うちけしの文」といいます。の
ぶぶん「ない」をつけて、うちけ
しの文にしましょう。

(れい) かげがふく。 「ふかない」

(1) ピアノをひく。 「」

(2) しゅくだいをする。 「」

(3) 水が出る。 「」

(4) ぼくはえをかく。 「」

(5) これは大きい。 「」

(6) これはかんたんだ。 「」

(7) あには中学生だ。 「」

(8) きょうはやすみだ。 「」

【二】 のぶぶん「ません」をつけ
て、ていねいな「うちけしの文」に
しましょう。

(れい) テレビを見る。 「見ません」

(1) さく文をかく。 「」

(2) ふえをふく。 「」

(3) さかながいる。 「」

(4) あには本をよむ。 「」

(5) いまはかなしい。 「」

(6) おにこわい。 「」

(7) ぼくは日本人だ。 「」

(8) それはりんごだ。 「」

【三】 はんたいのみをあらわす文を、
左にかきましょう。

(れい) わたしはせがひくい。 「」

(1) わたしはせが「たかい」。

ぼくのいえは「大きい」。

ぼくのいえは「」。

(2) これは水に「しずむ」。

これは水に「」。

(3) あにのほうがつよい。

あにのほうが「」。

(4) ねだんがすごくたかい。

ねだんが「」。

(5) わたしのへやは「きれいだ」。

【四】 うちけしの文には△、はんたいの
いみの文には×をかきましょう。

(1) まどをあける。 「」

● まどをあけない。 「」

● まどをしめる。 「」

(2) ぼくはふとっている。 「」

● ぼくはやせている。 「」

● ぼくのふとっていない。 「」

(3) かんじはとくいだ。 「」

● かんじはにがてだ。 「」

● かんじはとくいではない。 「」

(4) せいせきがあがりました。 「」

● せいせきがさがりました。 「」

● せいせきがさがりました。 「」

【一】のぶぶんをかえて、うちけしの文になおしましょう。

(1) ぼくは、やきゆうがすきだ。

↓
[]

(2) わたしは お手つだいを します。

↓
[]

(3) この みかんは 小さい。

↓
[]

(4) 今年の ふゆは さむいね。

↓
[]

(5) そとは ゆきが ふっている。

↓
[]

(6) わたしは えいごを ならっています。

↓
[]

(7) きのうの べんとうは おいしかった。

↓
[]

(8) このまえは たのしかったね。

↓
[]

(9) あしたは 雨が ふるだろう。

↓
[]

(10) きょう中に つくでしょう。

↓
[]

【二】のぶぶんをかえて、ほんたいのいみの文になおしましょう。

(1) ぼくは、やきゆうがすきだ。

↓
[]

(2) この みかんは 小さい。

↓
[]

(3) 今年の ふゆは さむいね。

↓
[]

(4) わたしは いま ないている。

↓
[]

(5) きのうの べんとうは おいしかった。

↓
[]

(6) ろうかの そうじは らくだった。

↓
[]

(7) あしたの しあい は まけるだろう。

↓
[]

【三】①にうちけしの文、②にいみがほんたいの文をかきましょう。

(1) この あいては つよい。

② | ①

[] | []

(2) ぼくは バスに のった。

② | ①

[] | []

【一】 のぶぶんをかえて、うちけしの文になおしましょう。

(1) わたしは、さんすうが とくだ。

↓
□

(2) おとうとは あとかたづけを します。

↓
□

(3) このねこは かわいい。

↓
□

(4) このへやは ひろいね。

↓
□

(5) ぼくのちちは ふとっている。

↓
□

(6) ぼくは ふろに 入っています。

↓
□

(7) きよ年の なつは つらかった。

↓
□

(8) きこのうの えいがは おもしろかったね。

↓
□

(9) あしたは いい日に なるだろう。

↓
□

(10) あさってまでに できるでしょう。

↓
□

【二】 のぶぶんをかえて、はんたいのいみの文になおしましょう。

(1) わたしは、さんすうが とくだ。

↓
□

(2) このへやは ひろいね。

↓
□

(3) ぼくのちちは ふとっている。

↓
□

(4) ははは いま わらっている。

↓
□

(5) きこのうの てきは つよかった。

↓
□

(6) さっきのにもつは おもかった。

↓
□

(7) こっちのほうは はやいだろう。

↓
□

【三】 ①にうちけしの文、②にいみが
はんたいの文をかきましょう。

(1) このハンドバッグは やすい。

①
□
②
□

(2) わたしは 山に のぼった。

①
□
②
□

★ごそあどとことば(指示語)

- これは すすめです。
- それは はどです。
- あれは きじです。
- うぐいすは どれですか。

「これ・それ・あれ・どれ」の ような ことばを

ごそあどとことばには つぎの ような ものが あります。

もの	ちかく	きつぎ	とおく	おおい
これ	それ	あれ	どれ	
この	その	あの	どの	
ここの	そこ	あそこ	どこ	
こつち	そつち	あつち	どつち	
こちら	そちら	あちら	どちら	
こんな	そんな	あんな	どんな	
ようす				

【一】ごそあどとことばを ○で かこみま しょう。

- (1) それは さくらの 花びらです。
- (2) あなたに この 本を あげましよう。
- (3) あそこに 大きな 木が 見えますね。
- (4) きみの いえは どこですか。
- (5) はやく こつちへ きてください。
- (6) けんくんは、どんなものがほしいですか。
- (7) あたらしい かさを かいました。それは、 まつかな いろを しています。
- (8) あちらに見えますのが、きょうとタワーで ございます。その たかさは、百三十一メー トルです。

【二】 たいしい ほうの () に ○ を つけ ましょう。

- (1) () それは きのうの しんぶんです。
- () その はきのうの しんぶんです。

- (2) () あの 山は ふじさんです。
- () あれ 山は ふじさんです。

- (3) () どつちの 手にある でしょう。
- () こつちの 手にある でしょう。

- (4) () ここの きて すわりなさい。
- () そこへ きて すわりなさい。

- (5) () あの くもに のって みたいなあ。
- () この くもに のって みたいなあ。

【三】 の ごそあどとことばは、どの こと ばの かわりに つかわれていますか。

- (1) ペンがあつたので、それで 字を かいた。
- (2) ケーキを もらうと、すぐに それを たべ はじめた。
- (3) かばんを あげた。そして その 中に 本を 入れた。

- (4) きれいな かいを ひろつてきて、それで ペンダントを つくりましよう。

- (5) なつやすみに おじさんの いえに いきま した。そこには、大きな わにが いました。

★こそあどことば(指示語)

- これはさんまでです。
 - それはさばです。
 - あれはたいです。
 - にしんはどれですか。
- 「これ・それ・あれ・どれ」の ような ことばを
 こそあどことば(指示語) といいます。
- こそあどことばには、つぎの ようなものが
 あります。

ようす	ほうがく	ばしょ	もの	ちかく	あつち	どち
こんな	こちら	ここ	この	あれ	あつち	どち
そんな	そちら	そこ	その	あそこ	あつち	どち
あんな	あちら	あそこ	あの	あつち	あつち	どち
どんな	どちら	どこ	どの	どつち	どつち	どつち

【一】こそあどことばを ○ で かこみま
 しょう。

- (1) あそこに 白い いえが 見えますね。
- (2) きみは どこから やってきたの。
- (3) あなたに その 花を あげましょう。
- (4) これは ぼくの かばんです。
- (5) あやさんは、どんな村にいたのですか。
- (6) ちょっと そっちへ 行ってください。
- (7) 大きな犬を かいしました。それは、ぼくに
 すぐ なついていきます。
- (8) こっちの くつが あなたのので、そっちの
 くつがわたしのです。

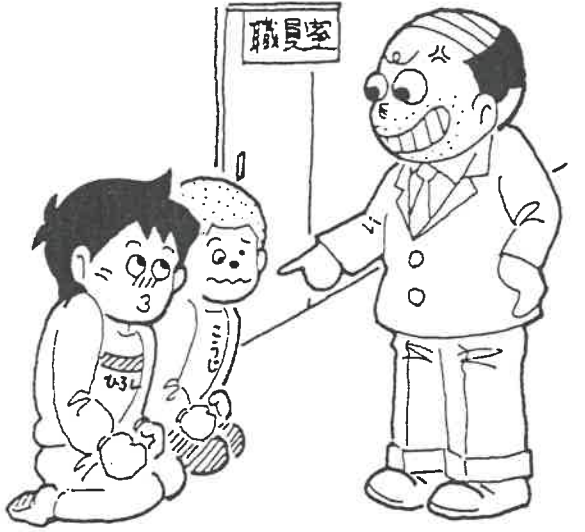
【二】 正しい ほうの () に ○ を つけ
 ましょう。

- (1) () あの山がエベレスト山です。
 () あれ山がエベレスト山です。
- (2) () ここにきてください。
 () あそこにきてください。
- (3) () そのぼくのえんぴつです。
 () それはぼくのえんぴつです。
- (4) () こっちへいったらよいのだろう。
 () どっちへいったらよいのだろう。
- (5) () あの にじをわたってみたい。
 () この にじをわたってみたい。

【三】 ——— の こそあどことばは、どの こと
 ばの かわりに つかわれていますか。

- (1) え本があつたので、それをよみました。
 「 」
- (2) おまもりを もらうと、すぐに それを
 つけた。
 「 」
- (3) ひきだしを あげた。そして その 中に
 のりを 入れた。
 「 」
- (4) 青い ぼうしを わすれた。それは、きのう
 おとうさんから もらったものだ。
 「 」
- (5) 日よう日に ちかくの こうえんに いきま
 した。そこには、あひるが いました。
 「 」

(1)



【一】 □にあてはまるこそあどことばを
「からさがしてかきいれましょう。」

先生：

にすわっていなさい。

こらじ：

先生こわいねえ。

ひまこ：

へいかないかなあ。

先生：おい、なにをぶつぶついつているんだ。

「この・あっち・ここ」

(2)



つとむ：

パンあたたかいね。

きまぐえのりちゃん：

がいいかな。

のりこ：

パンにしようかなあ。

きまぐえ：

はあまくておいしいわよ。

「どれ・どの・この・これ」

【二】 ———— のこそあどことばは、なにを
さして いますか。

(1) みかんをたべた。それはあまかった。

(2) にわにでた。そこでなわとびをした。

(3) かんじドリルをわすれているよ！これは、
だれのですか。

(4) はこをあけると、そこから白いけむりが
でてきました。

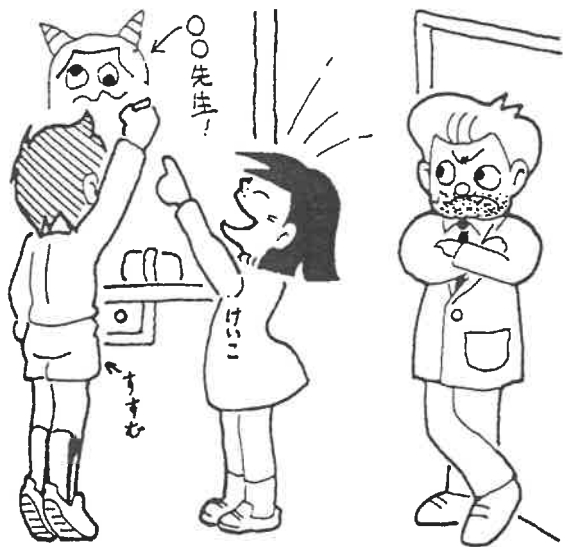
(5) むこうにめがねがありますね。あれを
とってきてください。

(6) 大きい犬がいます。それが ジョンです。

(7) たかいビルが見えますね。あれがおおつ
プリンスホテルです。

(8) ここに、にくとじゃがいもとにんじんと
たまねぎがあります。これらで、カレーを
つくりましょう。

(1)



【一】 □にあてはまるこそあどことばを
「からさがしてかきいれましょう。」

まま：

□

はどんなだったかなあ。

けい：

□

下は、ひげぶつぶつだよ。

先生：きみたち、

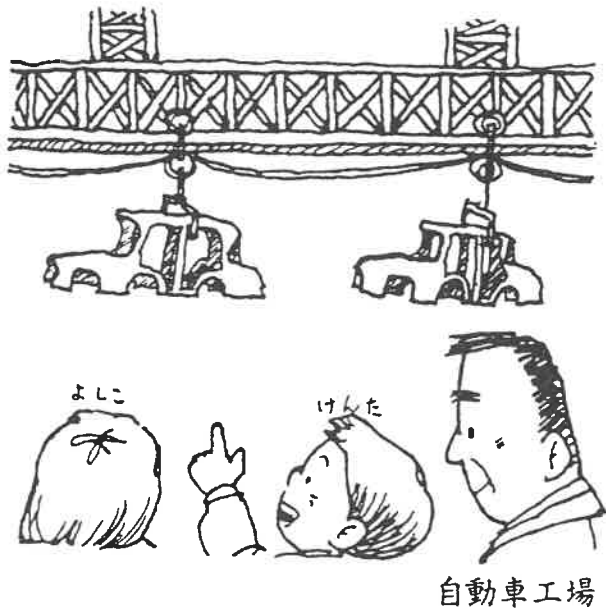
□

でなにしてる。

たろ：あつ！おにひげだ。にげろ！

「そこ・ここ・その」

(2)



自動車工場

けん：

□

きかいはなにですか。

まき：

□

はコンベヤーだよ。

よこ：

□

車ができるのですか。

まき：

□

はさいごまでひみつだよ。

「あれ・それ・あの・どんな」

【二】 ——— のこそあどことばは、なにを
さして いますか。

(1) かきをたべた。それはおいしかった。

□

(2) こうばんへいった。そこでいえをきいた。

□

(3) ペンをわすれています。これはだれのですか。

□

(4) アルバムをあけると、そこに、赤んぼうのころのぼくのしゃしんがあった。

□

(5) そこにもものさしがありますね。それをもってきてください。

□

(6) せの たかい 人が います。その 人が わたしの にいさんです。

□ 人 □

(7) 白い たてものが見えますね。あれがきょうかいです。

□

(8) ここに、だいこんと にんじんと ごぼうがあります。これらは、いなかから おくってきたものです。

□

【一】 のこそあどことばは、なにをさしていますか。

(1) まどをしめました。そして、そこからそとをながめました。

(2) あたらしい かばんを かってもらいました。それは、すごく かつこいい かばんでした。

(3) 大きな さくらの 木が 見えますね。あの 木の 下まで、 かけっこしましょう。

(4) おじさんは、びわこの 水をしらべています。このごろ、その 水は、すこしずつ よごれてきているそうです。

(5) きのは、ゆうごくんの いえで あそびました。その いえには、 大きな テレビが ありました。

(6) みさきちゃんは、ピンクのはこをもってきて、「この 中には なにが 入っているでしょう。」と いいました。

(7) たくさんの ともだちが あつまりました。その 中には、 ひろこさんも いました。

【二】 のこそあどことばは、なにをさしていますか。

(1) カンガルーの おかあさんの おなかには、ふくろが あります。赤ちゃんは、その ふくろの 中で 大きくなります。

(2) デイズニーの 『おしゃれキャット』という 本を よみました。その 本には、ダッチェス という ねこが でてきます。

【一】 のこそあどことばは、なにをさしていますか。

(1) ハワイへいきました。そして、そこでおみやげをかいました。

(2) まっかな かさをもらいました。それは、とっても ふしぎな かきでした。

(3) 赤い れんがの いえが 見えますね。あの いえは、いちばん 下の おとうとの いえです。

(4) にいさんには、とうきょうの 学校に いらっています。その 学校には、ゆう名人が 三人も います。

(5) きのは、ちさちゃんの いえで あそびました。その いえには、 かわいい 犬が いました。

(6) おとうさんは、くろい はこをもってきて、「この 中に、なにが 入っているか あててくらん。」と いいました。

(7) たくさんの 見ぶつ^{けん}人が やってきました。その 中には、 アメリカ人も いました。

【二】 のこそあどことばは、なにをさしていますか。

(1) らくだの せなかには、こぶが あります。その 小ぶには、あぶらが いっぱい 入っています。

(2) ディズニーの 『ピーターパン』と いう 本を よみました。その 本には、ピーターパンと いう ふしぎな 男の子が でてきます。

【一】——のこそあどことばは、なにをさしていますか。□にあてはまるようにかきましよう。

- (1) あわてて、りかしつにもどったら、そこに花子さんがいた。

- (2) いけに、白いろのかえるがすんでいました。それは、百びきのけらいをつれていました。

- (3) わたしがくびにかけているのは、まほうのペンダントです。これは、三つのねがいごをかなえてくれます。

- (4) 虫をたべるしよくぶつがいます。もうせんごけは、そのひとつです。

- (5) どうてんまであと一てんだ。しかし、それがどうしてもとれない。

- (6) ここに一本のロープがあります。いまから、これを二つにきります。さあ、なん本になるでしょう。

- (7) いまから四百五十年ほどまえ、キリストきょうが日本につたわりました。そのころの日本は、あちこちでたたかいがおこっていました。

- (8) ぼくは、やすみじかに「かえるのうた」をうたった。そのとき、きゆうに雨がふつてきた。

が
「
」
を
とき

- (9) きとうてつやで、べんきようした。そのせいかがでて、テストで百てんがとれた。

【一】の こそあどとことばは、なにを さしてありますか。□に あてはまる ように かきま
しょう。

(1) クリスマスに てぶくろを もらったので、それを はめて じてんしゃに のった。

(2) となりに 大きな きんぎよが います。それは、十年も いきているそうです。

(3) ぼくが いま もっているのは、まほうの ランプです。これを こすると、大男が でてきて
ねがいを かなえて くれます。

(4) 虫を たべる しょくぶつが います。うつぼかずらは、その ひとつです。

の

(5) もくひょうタイムまで あと 一ふんです。しかし、なかなか それが ちぢまりません。

(6) ここに 一まいの いろがみが あります。まず、これを はんぶん に おります。つぎに、
かたほうに いろんな もようを かきます。

(7) いまから百二十年ほどまえ、ベルがでんわをはつめいしました。そのころに エジソンは、
ちくおんきを はつめいしています。

(8) 学校へいくとちゅう、「赤トンボ」の うたを うたった。そのとき、きゆうに トンボが
とんできました。

「
」
の
を
とき

(9) きょう おそくまで おきていた。その せいで、きょうは あさねぼうを してしまった。

【一】 に あてはまる 接続詞(ひらがな)を、あとの から えらんで 書き入れましょう。

(1) ぼくは、体たいらくは とくくです。 音がくは にが手です。

(2) ひろ子ひろこさんは かぜを ひらて ねておきました。 、いつしみに あそべました。

(3) こんどの 休みは、山やまへ いこうか。 、うみへ いこうか。

(4) 雨が つよく なってきた。 、かぜも ビュービュー ふいてきた。

(5) こいで あそんでは いけません。 、じいじは 車が よく とおるからです。

(6) ひさしぶりですね。 、お父おとうさんは お元気ですか。

(7) まどを あけました。 、きゆうに つめたい 風かぜが 入いってきました。

(8) ぼくと 兄にいは 三才さんさいちがいで、ぼくと 妹いもうとは 二才にさいちがいです。 、兄は 妹よりも 五才 年上ねんじょうです。

(9) たいようは 東ひがしから のほります。 、西にしに しずみます。

(10) コーヒーが すきな 人も いれば、 、こうちやが すきな 人も います。

なせなら ・ ・ ・ そのうえ ・ ・ ・ だから ・ ・ ・ すると ・ ・ ・ それとも
そして ・ ・ ・ しかし ・ ・ ・ また ・ ・ ・ つまじ ・ ・ ・ ところで

【二】 に あてはまる 接続詞(ひらがな)を、あとの から えらんで 書き入れましょう。

冬ふゆが すぎました。 、あたたかい 春はるが やってきました。森の どうぶつたちは、

元もと気に のはらを はしりまわっています。 、くまの クマキチだけは まだ すがたを

みせません。どうしたのでしょうか。ひょう気で ねているのでしょうか。

まだ さむい 日ひのことでした。クマキチは、あんまり おながが すいたので、ちょっと 外そとを のぞ

いて みました。 、どうでしょう。外そとには 見みわたすかぎり わたしが つもっている

のです。 、空そらからも どんどん わたがしの かけらが おちてくるのです。クマキチは

なせなら ・ ・ ・ そのうえ ・ ・ ・ けれど ・ ・ ・ そして ・ ・ ・ それとも

【一】

に あてはまる 接続詞(1)を()を、あとの

から えらんで 書き入れましょう。

(1) そとは 大雨です。

、あしたの うんどうかいは 中しになると おもしろい。

(2) ひさしぶりですね。

、お母さんは お元気ですか。

(3) ころんで けがをした。

、ころんだときに さいふも なくしてしまった。

(4) わたしは、国語は 大すぎです。

、さんすうは きらいです。

(5) うんどうが とくいな 人も いれば、

、べんきょうが とくいな 人も います。

(6) あなたは 山へ いきたいですか。

、うみへ いきたいですか。

(7) はこの ふたを あけた。

、中から ばねの ついた 人形が とびだしてきた。

(8) たいようは 東からの ほりです。

、西に しまみずです。

(9) ここの おみやげは いけません。

、ここは ながれが ながくて きむただいびです。

(10) ほんの 姉は 二才ちがいて、ほんの 弟は 四才ちがいて。

、姉は 弟よりも

六才 年上です。

そのうえ、だから、また、それとも、そして、だから、また、それとも、しかし、なげなら、そして、

【二】

に あてはまる 接続詞(1)を()を、あとの

から えらんで 書き入れましょう。

クマキチは、さむさも わすれて、そとへ 出ていきかけた。 、口を 大きく

あけて、わたがしに とびつきかけた。 の わたがしは ちっとも あまく ない

のです。木に つもった わたがしも、 、やねに つもった わたがしも つめただけで

なんの あじも しないのです。クマキチは がっかりしました。

あなた もどった ときには、おなかは へこんだ。 、さむくて、さむくて、こんどは

ねむることも できなくなったのでした。このころ わけで、クマキチは 春になるまで、あなの 中で

ふるえながら すっと すくしたのでした。

そのうえ、だから、ところが、つまり、そして、また

【一】 □ に あてはまる 接続詞(詞) を、下の □ から えらんで、せんぶ 書きましよう。

(1) ひっしになつて 走つた。 □、でん車に のれた。

(2) 雨が ふつてきた。 □、えん足に 出かけた。

(3) ごはんを 三はい たべた。 □、スープを 五はいも のんだ。

(4) コーヒーを のみますか。 □、こごちやを のみますか。

(5) 海へ 行く 人も いれば、 □、山へ 行く 人も います。

(6) やつと しゅくだいが おわたたね。 □、こねから 何をしやうか。

(7) きょうは 学校を 休みました。 □、ねつが 三十九ど あつたからです。

(8) 姉は 兄より せが たかい。 □、兄は 姉より せが たかい。

(9) くだものには いろんな ものが あります。 □、りんご・みかん・いちじなどです。

□ に あてはまる 接続詞(詞) を、下の □ から えらんで、せんぶ 書きましよう。

		答 え		は たら き	
(9)					れいをあげるつながり
(8)					いいかえるつながり
(7)					りゆうをいつつながり
(6)					はなしをかえるつながり
(5)					二つをなご入るつながり
(4)					どちらかをえらぶつながり
(3)			そして		つけたしのつながり
(2)					はんたいのつながり
(1)					げんいんと、けっかのつながり

【一】 に あてはまる 接続詞(しよごひご)を、下の から えらんで 書き入れましょう。

(1) さむく なった 、こたつを 出しました。

(2) いっしょけんめい がんばった 、まけてしまった。

(3) まどを あける 、朝日(あすひ)が さしこんで きました。

(4) 遠足(えんそく)は 楽しかった 、お入(い)んとも おいしかった。

(5) もじ、のしあいに まけた 、いんたいします。

(6) おしゃべりを し 、じゅくじを しました。

(7) 見(み)たり きい したとき、作文(さくぶん)に 書く。

(8) 雪(ゆき)が ふつ 、あそびに 行き(い)ます。

ながら ても と たり ので し のに ば

【二】 接続助詞(しよごひご)を、つかって、二つの 文を 一つの 文に なおしてきましょう。

(1) 雨が ふった。だから、ゆうえんちへは 行(い)かなかった。
 雨が ふった

(2) 朝(あさ)から 何も 食(た)べていない。けれども、おなかは すいていない。
 朝(あさ)から 何も 食(た)べていない

(3) たいようは 東(ひがし)から のぼります。そして、西(にし)に 沈(しず)みます。
 たいようは 東(ひがし)から

(4) ランプを こすった。すると、中(なか)から 大男(おおおとこ)が 出(で)てきた。

(5) はを みがいた。それから、かおを あらった。

【一】 に あてはまる 接続助詞(しよじゆ)を、下の から えらんで 書き入れましょう。

(1) 弟は、ころんで けがをし 、なかなかた。

(2) トンネルを ぬける 、そこは 雪国(ゆきくに)だった。

(3) 台風(たいふう)が きた 、雨(あめ)を しっかり しめた。

(4) たくさん 食べた 、まだ おなかが すいている。

(5) もし、雨が ふれ 、山のほりは 中(な)しです。

(6) しゅくだいは おわった 、天気(てんき)も いいし、さいこうだ。

(7) きょうは、本(ほん)を 読(よ)んだり テレビを 見 していました。

(8) うたを うたい 、かえりました。

と の に し な が ら て も ば た り

【二】 接続助詞(しよじゆ)を つかって、二つの 文を 一つの 文に なおしなさい。

(1) 雨が ふりそつだ。だから、かさを もっていった。

雨が ふりそつだ

(2) 朝(あさ)ねぼうを した。けれども、学校(がっこう)には ちこくしなかった。

朝(あさ)ねぼうを した

(3) 冬(ふゆ)に なりました。そして、つめたい 北風(きたかぜ)が ふきはじめました。

冬(ふゆ)に

(4) とけいを おとした。すると、きゆうに ベルが なりだした。

(5) ごはんを 食べた。それから、おふろに 入った。

【一】 に あてはまる 接続詞(つなぎ)を、書きまじり。

(1) 犬に えさを やった。 、 ぜんぜん 食べて くれなかった。

(2) あしたは 遠足です。 、 早く ねるといって しました。

(3) ねつが 三十八日も あった。 、 学校へ 行った。

(4) バスで 行きますか。 、 電車で 行きますか。

(5) 雨が ふりそうでした。 、 かさを もって 出かけました。

(6) あやみさんは、作文が 上手です。 、 絵も 上手です。

(7) どうぞで ボールなげを しては いけません。 、 あぶない からです。

【二】 に あてはまる 接続助詞(つなぎ)を、書きまじり。

(1) のどが かわいた 、 ジュースを のみました。

(2) 弟は、ころんで けがを した 、 なかずに じつと がまんしてた。

(3) きのは、歌ったり おどっ して たのしかったね。

(4) ドアを ノックする 、 すぐに ドアが ひらいた。

(5) もし 雨が ふれ 、 うんどう会は 中止です。

(6) 本を 読み 、 道を 歩くと あぶないですよ。

(7) たとえ あらしになっ 、 きみの 家にあそびに 行きます。

【三】 つまじりつなぐことばに つまじりつなぐ文章を作りまじり。

(1) そとは 雪が ふっていた。だから、

(2) 面紙をとったのに、

【1】 に あてはまる 接続詞(つなぎ言葉)を書きつけてください。

(1) 花の たねを まきました。 、めが 出てきました。

(2) ぼくは、ピーマンは すきです。 、ごじんは ちがいます。

(3) ねつが 三十八日も あった。 、学校を 休みました。

(4) ちょっと 休みますか。 、この時 つかう時ですか。

(5) ひついで 走った。 、電車の じんに 来た。 。

(6) じつで さわいでは いけません。 、じいじは 本を 読むための へやだからです。

(7) まりちゃんは へんきょうが よく あります。 、うんとつても へんきょうです。

【2】 に あてはまる 接続助詞(つなぎ言葉)を書きつけてください。

(1) とても つかれて いた 、すぐに ねて しまった。

(2) 妹は、まだ 三才な 、かん字を していません。

(3) あの 人は さつきから、行ったり きて して いますね。

(4) 春に なる 、あたたかい 風が ぶきはじめます。

(5) もし わすれものを すれ 、とりに かえって もらいます。

(6) テレビを見 食いをするのは、よくないです。

(7) たとえ 台風が き 、りきは 中止 しました。

【3】 つぎの つなぎ言葉に つづく 文を 作りつけてください。

(1) そとは 大雨でした。けれども、

(2) いっしょけんめい がんばったから、

【1】 にあてはまる接続詞(接続詞)を、書き写しなさい。()の中からえらびなさい。

(1) 天気がだんだんわるくなってきました。、山へ行くのをやめました。

、雨はふらず、厚からははれてきました。()けれども、だから

(2) こうえんへあそびにいきました。、友だちのれい子さんがきていました。

、れい子さんといっしょにあそびました。()だから、すると

(3) ぼくは、バナナを三本食べた。、みかんを五つも食べた。

まだおなががすいてたまらないので、こんどはりたごを二つたべた。、きゅうに
おなががいたくなってきた。()けれども、そのうえ、だから

(4) 南風みなみかぜはあたたかい風ですね。南風は南の国からふく風です。、南の国は

あたたかい国のわけですね。、南のあたたかい国をとおりにして、もっと
もっと南へ行くと、南みなきよくがおります。南みなきよくはどこよりさむいところですよ。
()けれども、それで、だから

【2】 つぎの文を、つなぎことばをつかって、二つの文に分けなさい。

(1) 雨がぜんぜんふらないので、イネがかれかかっている。

○ 雨がぜんぜん
○ 「、イネがかれかかっている。

(2) ききうはあたたかかったが、ききうはさむい。

○ ききうは
○ 「、ききうはさむい。

(3) スイッチを入れると、ポンとおかしな音がした。

○ スイッチを
○ 「、ポンとおかしな音がした。

(4) あわてていえを出たから、しゅくだいをもってくるのをわすれた。

○ あわてていえを
○ 「、しゅくだいをもってくるのをわすれた。

〈指示語〉(いしご)


「これ・それ・あれ・わたしの・あなた・わたしを
指示語(いしご)とつづねます。

★上「わ」の指示語(わ)・わ・わ・わ・わ・わ・わ・わ
……手近づ(ちか)ひます
……手近づ(ちか)ひます
★上「あ」の指示語(あ)・あ・あ・あ・あ・あ・あ・あ
……手近づ(ちか)ひます
……手近づ(ちか)ひます
★上「そ」の指示語(そ)・そ・そ・そ・そ・そ・そ・そ
……手近づ(ちか)ひます
……手近づ(ちか)ひます
★上「の」の指示語(の)・の・の・の・の・の・の・の
……手近づ(ちか)ひます
……手近づ(ちか)ひます

【一】 あつては味の指示語(あじ)を 書きまじやう。

もの	これ	あれ	どの
もの	あれ	あれ	どの
ぼしや	それ		それ
ぼうがく	こっち	あっち	どっち
やうす	こんな	そんな	どんな

【二】 えを見て、□にあては味の指示語を
あとからえらんで 書きまじやう。



「あれ・それ・こっち・の・の」

おまへと じゃあ、
ちやうだい。

□

ちかな、
千田
おまへとくま。

- 【三】—の ことばを、指示語に書きかえます。
「ほんまのもの」○でかみまじやう。
- (1) どつぶんえんに行った。そして、どつぶんえんでライオンを見た。
「あれ・この・それ・どつぶん」
- (2) まっ白な犬がちかよってきた。ぼくは、まっ白な犬のあたまをなせてやった。
「これ・その・こっち・あれ」
- (3) きれいな石を見つけた。わたしは、きれいな石を、もってかえた。
「それ・これ・どれ・あれ」
- (4) むじんにせのたかい人がいますね。せのたかい人が、ぼくの兄です。
「どれ・これ・それ・あれ」
- (5) こくに、赤い水があります。いまから、赤い水を青い水にかえてみせまじやう。
「あの・こっち・この・そっち」
- 【四】 □にあては味の指示語を、あとからえらんで 書きまじやう。
- (1) □の花がすきですか。
「この・どれ・どっち・これ」
- (2) □みさを、まっ白くにまじまじまじやう。
「この・どの・この・それ」
- (3) □のぼうがおにめいりますか。
「その・この・こっち・どっち」
- (4) ぼくのいえは、□です。
「どれ・あれ・この・そんな」

【1】 — の 指示語(しじご)は、何を(なに)さして(さ)いますか。

(1) きょうは、友だち(ともだち)の 家(いえ)へ 行(い)って、そ(そ)こで(で) テレ(て)ビ(び)を(を) 見(み)ました。

(2) かみ(か)み(み)ひ(ひ)ご(ご)う(う)き(き)を(を) 作(つく)り(り)ま(ま)し(し)た(た)。そ(そ)し(し)て(て)、そ(そ)れ(れ)を(を) と(と)ば(ば)し(し)ま(ま)し(し)た(た)。

(3) 赤(あか)い(い) れ(れ)ん(ん)が(が)の(の) た(た)て(て)も(も)の(の)が(が) 見(み)え(え)ま(ま)す(す)ね(ね)。あ(あ)れ(れ)が(が) 学(がく)校(こう)で(で)す(す)。

(4) こ(こ)こ(こ)に(に) ケ(け)ー(ー)キ(キ)が(が) あ(あ)り(り)ま(ま)す(す)。こ(こ)れ(れ)は(は) だ(だ)れ(れ)の(の)で(で)す(す)か(か)。

(5) りん(りん)ご(ご) か(か)き(き)と(と) み(み)か(か)ん(ん)を(を) 買(か)い(い)ま(ま)し(し)た(た)。こ(こ)れ(れ)ら(ら)の(の) ね(ね)だ(だ)ん(ん)の(の) ち(ち)ち(ち)う(う)け(け)い(い)は(は) ち(ち)ち(ち)う(う)ご(ご)と(と) 千(せん)円(えん)で(で)し(し)た(た)。

(6) ぼ(ぼ)く(く)に(に)は(は) 弟(あに)と(と) 妹(いもうめ)が(が) い(い)ま(ま)す(す)。ど(ど)ち(ち)ら(ら)も(も) ま(ま)だ(だ) よ(よ)う(う)ち(ち)え(え)ん(ん)に(に) 行(い)っ(っ)て(て)い(い)ま(ま)す(す)。

(7) ひ(ひ)と(と)つ(つ)ぶ(ぶ)の(の) た(た)ね(ね)が(が)、い(い)わ(わ)の(の) わ(わ)れ(れ)め(め)に(に) お(お)ち(ち)ま(ま)し(し)た(た)。そ(そ)し(し)て(て)、そ(そ)こ(こ)で(で) め(め)を(を) 出(だ)し(し)ま(ま)し(し)た(た)。

(8) せ(せ)の(の) た(た)か(か)い(い) 人(ひと)が(が) い(い)ま(ま)す(す)ね(ね)。あ(あ)の(の) 人(ひと)が(が) 山(やま)下(くだ)く(く)ん(ん)で(で)す(す)。

(9) で(で)ん(ん)気(き)が(が) き(き)ゅ(ゅ)っ(っ)に(に) き(き)え(え)た(た)。で(で)も(も)、そ(そ)の(の) わ(わ)け(け)は(は) わ(わ)か(か)ら(ら)な(な)い(い)。

(10) 二(に)年(ねん)生(せい)の(の) 男(おとこ)の(の) 子(こ)が(が) あ(あ)つ(つ)ま(ま)り(り)ま(ま)し(し)た(た)。そ(そ)の(の) 中(なか)に(に)、一(いち)人(にん)だ(だ)け(け) え(え)ん(ん)ぴ(ぴ)つ(つ)を(を) わ(わ)す(す)れ(れ)た(た) 人(ひと)が(が) い(い)ま(ま)し(し)た(た)。

国 語

年

【2】 — の 指示語(しじご)は、何を(なに)さして(さ)いますか。□にあてはまることを書き入れましょう。

(1) ひ(ひ)き(き)だ(だ)し(し)の(の) 中(なか)に(に) しゃ(しゃ)ん(ん)が(が) 入(い)っ(っ)て(て)い(い)る(る)か(か)ら(ら)、そ(そ)れ(れ)を(を) も(も)っ(っ)て(て)き(き)て(て) くだ(くだ)さい(さい)。

□ の □ に □ いる □

(2) お(お)じ(じ)さん(さん)に(に) 三(さん)色(しき)ス(ス)プ(プ)ン(ン)を(を) も(も)ら(ら)っ(っ)た(た)。ぼ(ぼ)く(く)は(は)、そ(そ)れ(れ)が(が) す(す)い(い)く(く) 気(き)に(に)ら(ら)っ(っ)て(て)ら(ら)ぬ(ぬ)。

□ に □ □ □ □ □ □ □

(3) む(む)ご(ご)う(う)の(の) 花(はな)だ(だ)ん(ん)に(に) 赤(あか)い(い) 花(はな)が(が) さ(さ)い(い)て(て)い(い)ま(ま)す(す)ね(ね)。あ(あ)れ(れ)は(は)、キ(キ)ン(ン)ギ(ギ)ョ(ョ)ン(ン)ウ(ウ)と(と) い(い)う(う) 花(はな)で(で)す(す)。

□ の □ に □ □ □ □ □ □ □ □

【一】 — の 指示語(指示語)は、何を なしてありますか。

(1) きのおは、みちさんの家へ行って、そこであそびました。

(2) 花かざりを作りました。そして、それを 友だちにあげました。

(3) 大きな 白い ビルが ありますね。あれが 父の 会社です。

(4) えんぴつが おちています。これは だれのですか。

(5) トマトと にんじんと じゃがいもが いろいろあります。(いろいろです) ころは やおやに うっています。

(6) ここに えんぴつと ボールペンが あります。どっちを つかいますか。

(7) 一人の 男が、日本へ 行った。そして、そこで 三年間 べんきょうを した。

(8) 白い大きな犬が いますね。あの 犬は、田中さんの 家の 犬です。

(9) 人がいっぱいあつまっている。でも、その(わけ)りゆうをわたしは しらない。

(10) 二十まいの カードが あります。この 中に、一まいだけ あたりが あります。

【二】 — の 指示語(指示語)は、何を なしてありますか。□にあてはまることばを 書き入れましょう。

(1) テーブルの 上に しんぶんが おいてあるから、それを もってきて ください。

(2) お母さんに ふではごを かってもらった。わたしは、それを 大せつに つかっています。

(3) やねの上で みけのねこが ねむっていますね。あれは、うちの タマちゃんです。

の で の の の

【1】 — の 指示語 (しじご) は、何をさしていらいますか。□にあげたものを 書き入れましょう。

(1) りんごが落ちてゐる。シャーペンと鉛筆、これは、サントラのノートです。
 [] [] [] [] [] [] []

(2) りんごを かんじんに 作りたい。それが わたしの ゆめです。
 [] [] [] [] [] [] []
 [] [] [] [] [] [] []

(3) クーラーの コマースシャルには、青・白・水色を よく つかいます。これは、色があは いますか。
 [] [] [] [] [] [] []

(4) うつりも はやく 走る 鳥を 書いていますか。その 鳥は、だまです。
 [] [] [] [] [] [] []

[指示語 (3)]

(5) むすんで くれる 人が います。それは、ゆめいせきと いらいます。

(6) きのお、りんごを 三つ もらった。それは、どれも おいしかった。
 [] [] [] [] [] [] []
 [] [] [] [] [] [] []

国語

(7) 山の上は、白い たてものが 見えますね。あれが てんぼうです。
 [] [] [] [] [] [] []

(8) いもづか 人ぎょうを だいています。あの 人ぎょうは、ぼくが あげた 人ぎょうです。
 [] [] [] [] [] [] []

(9) としよかの 本には、ほんごを かけた ふだが はってあります。これは、本の しゅを
 すうで あらわした ふです。
 [] [] [] [] [] [] []
 [] [] [] [] [] [] []

(10) 町の まん中に、赤れんがの たてもの ありました。それが、はくぶつかんでした。ぼくたちは、
 町を 歩くと、かきかきした。その中には、プロットケットの たまごの かきかきも
 ありました。

① それ [] [] [] [] [] [] []
 ② それ [] [] [] [] [] [] []
 ③ それ [] [] [] [] [] [] []
 の [] [] [] [] [] [] []

【1】——の 蓋 (ふた) (ふた) (ふた) (ふた) 何 を ちこつて 呉 (くれる) が。

(1) 金 (かね) を 呉 (くれる) ます の 中 (なか) で、金 (かね) を 呉 (くれる) が おおごら 呉 (くれる) ます。そ (そ) こへ えん を 入 (い) れて やると、水 (みづ) に いた 金 (かね) を 呉 (くれる) ず ぬす べし ぬす べし ぬす べし ぬす べし ぬす べし。

(2) 百 (ひゃく) メートル を 走 (まわ) る の に、た っ た 一 (いち) びょう の ちがいで した。し か し、それ が ど う じ つ も おおごらへん じゆ が できな った の だ。

(3) 春 (はる) に なると、たんぼ の きいろい きれいな 花 (はな) が さき ます。二 (に) 、三 (さん) 日 (にち) たつと、それ は しほんで だんだん 黒 (くろ) っ ぽい 色 (いろ) に かわり ます。

(4) えきま えに 本 (ほん) や が あり ます。そ (そ) こ で すか ん を かい ました。

(5) のり 子 (こ) さん は、しや が ん で く つ の ひも を むす んだ。その とき、うしろ の ほう から、だれ が おい かけ て くる こと に きつ いた。

(6) ひろ しくん が、こ (こ) くぼん に え を かき ました。それ は、と (と) ても おもしろい え でした。

(7) 冬 (ふゆ) の あいだに、たまご から さけの 赤 (あか) ちゃん が うまれます。大き (おほ) さは、一 (いち) センチメートル ぐら いで、おなか に 赤 (あか) い くみの むの よう な もの を つけて います。しだい に それ が 大き (おほ) くなって、三 (さん) センチメートル ぐら いの 小 (こ) 魚 (いさな) に なり ます。

(8) ある 夏 (なつ) の 田 (た) の 夕 (ゆ) ぐあ だ った。いえ の ちかく の やぶで、チーチー ないて いる ものが あった。フアーブル は、それ が 何 (なに) の 声 (こゑ) か わから なかった。

「ブリン、そ (そ) なた いよ び、い (い) つ だ にも 何 (なに) を し て らる の。」

おぼ さんが、そ (そ) う して ても、フアーブル は、やぶの 咩 (な) を びい びいと 耳 (みみ) を すま して いた。

それ

そ (そ) なた

そ (そ) う

(1) うちの 中び、どこか行か、お母さんから使った。それ、パンくずを なげらるると、ずっととおくに行か、どこか行か、お母さんから使った。

[]

(2) ジャンプすると、天井まで、わずか 三センチでした。しかし、それが どうしても とびあがる ことが できないのでした。

[]

(3) 秋には、いろんな しゅるいの きつじんを うえました。春になると、それらは いっせいに めを出しはじめました。

[]

(4) えきまえに スーパーが あります。そいで やさいを かってきてください。

[]

(5) けんじくんが、ドアを ドンドンと たたたいた。そのとき、いえの 中ら、「だれだー」という 声が きこえた。

[]

(6) みどりさんは、国語の じかに 作文に かきました。それは、とても じょうずでした。

[]

(7) むかし、人は、みぶりや 声で、じぶんの いいたい ことを あい手に つたえました。しかし、これでは、とおく はなれた ところに いる 人たちに ようじを つたえる ことが できません。

[]

(8) 「ひとつだけ ちょうだい。」
これが、ゆみ子の おほえた ちょうめの じぶひでした。また、せんそうの はげしかった この ことです。そのころは、お母さんじゅしゃ キャラメルや チョコレートの ような、そんなものは、どこへ 行く ことも ありませんでした。

[]

[]

[]